大学と博物館

木村　英明

札幌大学埋蔵文化財展示室の開設

去る四月十四日、馬場元二学長と斎藤和夫「跡施設利用計画委員会」委員長の手でオープニング・テープがカットされ、『札幌大学埋蔵文化財展示室』が開設した。一般への公開を目的とした、本学で最初の博物館施設である。翌十五日には、展示室の開設を記念して、『邪馬台国時代の北と南』――札幌医科大学の大島直行氏による「弥生時代が北海道にもたらしたもの」と、佐賀県教育委員会の高島忠平氏による「吉野ヶ里遺跡と魏志倭人伝」――と題する特別講演会が、北海道教育委員会・札幌市教育委員会・北海道新聞社・HBC後援のもとで催された。

展示室を飾る資料は、開学以来の二十年間にわたって調査・収集してきた北海道関係の考古学資料が主体で、その他ソ連邦科学アカデミーなどから提供された貴重な海外の資料も展示されている（表―1）。

展示室の開設までには、学内外の多くの関係者によるご理解と多大なるご支援があった。ここでひとりひとりを銘記することはできないが、まずもって感謝せねばならない。また、周知のとおり、札幌大学は開かれた大学を目指しており、あらためてこの展示室の果す社会的役割を痛感し、よりいっそうの充実を期したいと考えている。もちろん、こうした責任を当事者のみで負えるものではなく、関係各位のこれまで以上のご支援をお願いせねばならない。

ここでは、日本の大学における博物館の現状と役割について、日ごろ考えているところを記してみたい。

博物館の定義

国際連合の中のユネスコ(UNESCO)の中に、国際博物館会議(ICOM)が設けられている(一九四六年設立)。一九七四年のコペンハーゲン大会で採択されたICOM憲章、第三条に、博物館の定義がある。すなわち、博物館とは、社会とその発展に奉仕するために公衆に開かれた営利を目的としない常設の公共的施設で、人類とその環境に関する物的証拠を、研究、教育およびエンジョ

イすることを目的に、収集し、保管し、研究し、展示する施設である、という。そして第四条に、①保存のための施設、および図書館や公文書館に常設された展示室、②自然・考古学・民族学上の記念物や遺跡、史跡、そして博物館的性格をもつ現地で、収集、保存および伝達活動を行うもの、③植物園、動物園、水族館、生態飼育園などのように生きものを展示する施設、④自然保護地域、⑤科学館とプラネタリウムが例示されている。一口に博物館といっても、多くの種類が含まれるのである。なお、上記規定の〝営利を目的としない〟は、〝展示品の売買を主たる事業としない〟と解釈するのが通説である。

日本の博物館と大学附属博物館

丹青総合研究所の調査によると、日本には合わせて四、二〇三の博物館(園)があるという(丹青総合研究所)。

これらには、『博物館法』に基づき届け出された博物館及び博物館相当施設はもちろん、届け出されていない博物館および博物館相当施設などが含まれている。区分の難しいものも多いが、館種別の実態を示すと、図―1のとおりである。ちなみに、北海道の博物館数は、あわせて三六五を数え、全国総計の九%を占めている。この高率は、一九七〇年代に市町村の開基記念事業の一つとして相次いで設立された市町村立の郷

《札幌大学埋蔵文化財展示室の主な展示資料》

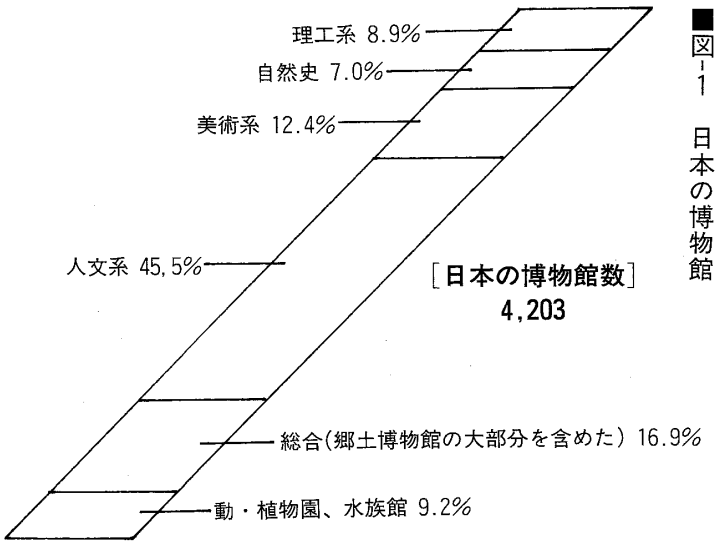
●マンモスの牙・臼歯・体毛他　ソ連・ヤクーツク
●マンモスの臼歯（複製）　広島町音江別川
●毛サイ・野牛の体毛　ソ連・ヤクーツク
●握槌（ハンド・アックス）　エジプト・デール・アリ・バハリ神殿上
　ルヴァロワ型石核・剝片
●先土器時代の石器　白滝村幌加沢遠間遺跡／同服部台遺跡
　石刃・石刃核・細石刃核・彫器・尖頭器・掻器・舟形石器・スキー状削片・舟形削片ほか　／赤井川村都遺跡／上川町日東遺跡他
●ヴィーナス像（複製）　フランス・レピュグー
●シベリアのクサビ形細石刃核　ソ連・ウスチ、キャフタ／モンゴル
●モンゴルの中・新石器時代の石器　モンゴル
　（細石刃・細石刃核・石鏃ほか）
●原石〈黒曜石・頁岩〉　白滝村赤石山／厚沢部町
●東釧路Ⅲ式土器〈縄文時代早期〉　湧別町湧別市川遺跡
●石刃鏃文化の遺物
　石刃鏃・石刃・石刃核・彫器・石錐・凹石・擦切磨製石斧・土器ほか
●円筒下層d式土器〈縄文時代前期〉　恵庭市柏木B遺跡
●環状土籬出土の遺物〈縄文文化後期〉　恵庭市柏木B遺跡
　石棒・石斧・石鏃・ナイフ・翡翠製小玉・常林式土器・人面付き注口土器ほか
●縄文時代後期末葉の遺物　恵庭市柏木B遺跡
　土偶・滑車形耳飾り・漆塗り弓・漆塗り櫛ほか
●シベリアの土偶〈ネフェルティティ、複製〉　ソ連・コンドン遺跡／スーチュー島
●人面付き土器片〈複製〉　ソ連・ヴォズネ・セノフカ遺跡
●渦巻き文のある土球〈複製〉　ソ連・スーチュー島
●恵山式土器　石狩町紅葉山33号遺跡
●紅葉山33号式土器〈続縄文時代前期〉　石狩町紅葉山33号遺跡
●紅葉山33号式土器にともなう石器　石狩町紅葉山33号遺跡
　石製ナイフ・石鏃・石斧・管玉・石偶ほか
●天塩町川口基線式土器〈続縄文時代前期〉　天塩町川口基線遺跡
●後北C2・D式土器〈続縄文時代後期〉　恵庭市柏木B遺跡
●北大式土器〈続縄文時代後期〉　恵庭市柏木B遺跡
●ガラス製小玉　恵庭市柏木B遺跡
●土師器　千歳市ウサクマイ遺跡（石附コレクション）／恵庭市カリンバ3遺跡
●擦文土器　深川市東納内遺跡／天塩川口基線遺跡
●オホーツク式土器　斜里町ウトロ
●骨製装身具　斜里町ウトロ
●西アジアの遺物　イラク（ジャルモ遺跡・ウル遺跡）／イランほか
●そのほか

土博物館が原因している。

さて、表―2は、大学に設けられている附属博物館の一覧である。先の丹青総合研究所の調査に、筆者が知り得た例を加えたものであるが、実際はこれらの館数をさらに上回るものと思われる。

それによると、七七大学に、あわせて一一七博物館(園)がある。国立大学に集中する植物園・水族館を除くと、博物館は、六三大学で、八六館が設置されている。設置大学数は、日本の大学数(四年制)の一五%弱にあたる。欧米の各大学が図書館とともに博物館を併置しているのと比較すると、決して多いとはいえないが、日本においても、大学での博物館の役割が再認識されつつあり、近年、増加傾向にある。これらの博物館の中で目立つのが考古学博物館である。埋蔵文化財を含む広く文化財が、人類(国民)共有の財産として、一部の愛好家や研究者に死蔵されることなく、活用・公開されるよう国際法・国内法にうたいあげられており、この種の博物館が多くなるのは当然の成り行きである。博物館が考古学博物館のイメージで一般に受け止められているのは、博物館の歴史に加えて、こうした背景がある。一方、数こそ多いとは言えないが、大学ならではの特色のある博物館が知られており、大学附属博物館の今後のあるべき姿が示されている。ここで、そのいくつかを紹介してみよう。

■図―1　日本の博物館



ユニークな大学附属博物館

《秋田経済大学附属雪国民俗博物館》

地域社会の伝統・文化を究明し、ますますの衣食住の改善に資することを目的に雪国民俗研究所が設けられ、その附属博物館として開設された。雪国の生活を伝える民俗資料が中心になっており、中には、重要民俗資料の指定を受けたものもある。

《秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館》

一九一〇年に秋田鉱山専門学校の列品室として開設された。鉱物・鉱山に関する資料が展示・公開されている。

《杉野学園衣装博物館》

学園創立三十周年を記念し、また杉野学園創始者が欧米諸国で収集してきた洋服を基礎に設立された。西洋歴史衣装、東洋民族衣装、日本歴史衣装、ファッション画などの展示により、洋服の移り変わりが示される。

《東京大学総合研究資料館》

異なった学部に所蔵されていた学術資料を安全に保管し、研究と教育の両面で有効に活用するための学内共同利用施設である。どちらかというと、研究に重点をおいた研究博物館であり、一同に集められた結果とくに境界領域の研究に大きな便宜がもたされたとの評がある。学外者を対象とした普及活動はあまり行われていないが、特別展示や講演会も開催される。

《東京農工大学工学部附属繊維博物館》

一八八六年に農商務省農務局蚕病試験場の付設参考品陳列室として開設し、およそ九十年経た一九七七年に正式に学部の教育施設となった。蚕糸・紡織・ニット・組紐・ガラス・繊維・繊維試験機など学術的価値のある資料が収集・展示されており、学内のみならず、一般の繊維科学の啓蒙に貢献している。「友の会」結成の準備も進められているという。

大学附属の博物館園

《博物館》

- 札幌学院大学考古学資料室展示室
- 東京大学文学部附属北海文化研究常呂実習施設
- 東京大学農学部附属演習林北海道演習林樹木園材鑑標本室
- 北海道教育大学旭川分校史学資料室
- 北海道大学農学部附属博物館
- 北海道大学附属図書館北方資料室
- 北海道大学文学部附属北方文化研究施設　二風谷分室
- 北海道大学理学部地質学鉱物学教室標本室
- 北海道大学水産学部水産資料館
- 北海道大学農学部附属苫小牧地方演習林資料館
- 北海道大学理学部附属臨海実験所博物館
- 東北大学考古学陳列館
- 東北大学文学部河口コレクション
- 東北大学記念資料室
- 東北福祉大学　芹沢銈介美術工芸館
- 秋田経済法科大学附属雪国民族博物館
- 秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館
- 山形大学附属博物館
- 茨城大学五浦美術文化研究所天心記念館
- 日本大学法学部20年記念館
- 武蔵野音楽大学楽器博物館（入間校地）
- 日本工業大学工業技術博物館
- 立正大学熊谷校舎考古学陳列館
- 青山学院資料センター
- お茶の水女子大学美術資料展示室
- 学習院大学史料館
- 共立女子大学美術資料展示室
- 国学院大学考古学資料館
- 国学院大学神道資料展示室
- 国際基督教大学博物館　湯浅八郎記念館
- 杉野学園衣裳学園博物館
- 成城大学民俗学研究所東洋美術資料館
- 多摩美術大学附属美術参考資料館
- 玉川大学教育博物資料室
- 東京水産大学水産資料館
- 東京家政大学生活資料館
- 東京芸術大学芸術資料館
- 東京商船大学100周年記念資料館
- 東京女子医科大学史料室　吉岡弥生記念室
- 東京大学教養学部美術博物館
- 東京大学総合研究資料館
- 東京大学文学部列品室
- 東京農業大学農業資料室
- 東京農工大学工学部附属繊維博物館
- 日本女子大学成瀬記念館
- 文化女子大学文化学園服装博物館
- 武蔵野音楽大学楽器博物館（江古田校地）
- 明治大学刑事博物館
- 明治大学考古学陳列館
- 明治大学商品陳列館
- 立教大学資料展示室
- 早稲田大学会津博士記念東洋美術陳列室
- 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
- 信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設展示館
- 岐阜大学教育学部郷土博物館
- 東海大学海洋科学博物館
- 東海大学自然史博物館
- 東海大学社会教育センター三保文化ランド
- 東海大学人体科学博物館
- 東海大学航空宇宙科学博物館
- 名古屋大学考古学陳列室
- 南山大学人類学博物館
- 滋賀大学経済学部附属史料館
- 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
- 京都大学文学部博物館
- 京都大学農学部附属水産実験所水産生物標本館
- 同志社大学考古学第1資料室　第2資料室
- 同志社新島遺品庫
- 立命館大学末川記念会館　メモリアルルーム
- 大阪音楽大学附属楽器博物館
- 大阪商業大学谷岡記念館
- 大谷女子大学資料館
- 関西大学考古学等資料室
- 大阪芸術大学芸術情報センター・オーディオ資料室
- 神戸商船大学海事資料館
- 天理大学附属天理参考館
- 岡山大学附属考古学資料館
- 岡山理科大学標本室
- 川崎医科大学現代医学教育博物館
- 広島大学考古学標本室
- 島根大学山陰地域研究総合センター・資料展示室
- 山口大学埋蔵文化財センター
- 九州大学文学部考古学研究室資料室
- 熊本大学総合研究資料館
- 別府大学附属博物館
- 宮崎大学農学部農業博物館

《植物園・水族館》

- 北海道大学農学部附属植物園
- 北海道大学薬学部附属用植物園
- 北海道大学理学部附属臨海実験所水族館
- 岩手大学農学部附属植物園
- 東北大学理学部附属八甲田山植物実験所
- 東北大学理学部附属植物園
- 東北大学薬学部附属薬用植物園
- 城西大学理学部附属薬用植物園
- 千葉大学理学部海洋生物環境解析施設小湊実験所
- 東京大学理学部附属植物園日光分園
- 東京大学農学部附属演習林千葉演習林
- 東京大学薬学部附属薬用植物園
- 東京大学理学部附属植物園（小石川植物園）
- 日本大学理工学部薬用植物園
- 東京薬科大学薬用植物園
- 星薬科大学薬用植物園
- 北里大学薬学部附属薬用植物園
- 東京農業大学植物園
- 北陸大学附属薬用植物園
- 昭和大学薬用植物園
- 京都大学理学部附属植物園
- 京都薬科大学附属薬用植物園
- 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館
- 京都大学農学部附属農場古曽部温室
- 大阪市立大学理学部附属植物園
- 摂南大学薬学部附属薬用植物園
- 神戸女子薬科大学薬用植物園
- 広島大学医学部附属薬用植物園
- 徳島大学薬学部附属薬用植物園
- 九州大学薬学部附属薬用植物園
- 長崎大学薬学部附属薬用植物園

《明治大学商品博物館》

考古学博物館・刑事博物館とともに、大学会館に置かれ、充実した施設と貴重な収蔵品・展示品で大学の研究・教育のみならず、社会教育上大きな役割を果たしている。商品・標本類は数千点におよんでいる。

《明治大学刑事博物館》

刑具の収集・展示を目的として開設されたユニークな博物館である。その後、江戸時代・明治時代初期の貴重な文書や錦絵が、収集・展示されている。ギロチン（仏）や鉄娘（独）の展示は、特に有名である。

《早稲田大学坪内博士記念演劇博物館》

坪内逍遙博士の古希と『シェークスピア全集四十巻』の翻訳完成を記念し、有志一、五〇〇有余名の協賛を得て設立された日本唯一の演劇博物館である。建物は、シェークスピア時代のフォーチュン劇場を模して造られ、芝居版画（浮世絵）の展示、東洋演劇に関する展示、日本演劇史・欧米演劇史とその展望に関する展示などが見られる。

《東海大学海洋科学博物館》

人体科学博物館・自然史博物館などとともに、学内の研究・教育はもとより、社会教育への積極的な貢献を目指して設置された博物館である。水族展示部門と海の歴史・開発にかかわる博物展示部門・屋外に設けられた海洋実験水槽部門などからなる。小学生対象のサマースクールや小・中・高校教員向けの講習会が開かれている。

《東海大学人体博物館》

研究機関の一環として計画され、広く医療関係の社会教育を目指す博物館として開館した。マリリン・モンローの赤い唇から入る館内は、ヒトの体内を模し、「体のフロア」・「医療のフロア」・「健康のフロア」からなる。

《滋賀大学経済学部附属史料館》

彦根高商（滋賀大学の前身）時代に設けられた近江商人研究室を併合し、経済学部附属の史料館として独立設置された。近江商人の研究実績が認められたことによるが、中世史料とともに、近江商人を中心とした近世史料の所蔵・展示は、学会においても注目されている。

《神戸商船大学海事資料館》

学生の教育参考に供するとともに、広く海事思想の普及を図る目的で開設された。海事一般に関する資料は、多岐にわたっているが、和船関係資料は、ほかに類例の少ない収集品になっている。

《宮崎大学農学部附属農業博物館》

前身の宮崎高等農林学校の創立十周年を記念し、卒業生と教師の寄付によって設立された。農林畜産学とその応用に関するものを中心に、広く自然科学に関する資料が収集・展示されている。

この他、大学附属機関ではないが、国立大学の共同利用機関として位置づけられた博物館がある。

《国立民族学博物館》

世界の諸民族の社会と文化に関する標本資料、映像資料、音響資料を通して、民族学研究の成果を展示・解説する。すなわち、各地域ごとの常設展示、通文化的なテーマ別展示、そして映像展示から成る。特に後者は、優れたシステムと豊富なプログラムを誇り、日本の博物館に大きな影響を与えている。また、大学の身分制度をそのまま導入し、研究を重視する新しいタイプの博物館を目指している。総合研究大学院大学の教育研究の一翼を担う国立大学共同利用機関でもある。

国立歴史民俗博物館も、国立民族学博物館の理念を踏襲したものであり、また現在、国立考古学博物館の準備が進められている。

博物館の機能と大学附属博物館設立の目的

大学附属博物館を設置した契機について調べると、大学・学部の創設、あるいは周年記念事業の一つとして開設された例、寄贈・集積された資料の公開を意図し開設された例など、様々である。

ところで、博物館の機能は、大きく収集

（保存）・調査（研究）・展示（教育）に分けられる。その機能から大学附属博物館設立の目的を見ると、①資料の保存を主たる目的とした博物館、②研究機能を重視した博物館、③教育機能を重視した博物館がある。①は、早くに設立され、公開が制度化されていない古いタイプの博物館である。最近の博物館には、こうした例はあまりみられない。②は、学内での公開を建前とするが、どちらかというと研究者へ開かれた研究機関としての性格の強い博物館である。③は、一般への公開を目的として設立された博物館である。もとより、大学附属の博物館を単純に三分することには、いささか無理がある。研究と教育の機能をもって成り立つ大学に附属する博物館が、研究上の要請から生まれ、その結果として教育機能を発揮することは、至極当然であるからである。事実、設立の契機や目的がどうであれ、それらの機能が有機的に結合しつつ存在しているのが、実状である。むしろ、それぞれの機能が十分に発揮されているかが、問題なのであろう。

大学附属博物館に見られる最近の動向

近年、先に指摘した増加傾向とともに、大学附属博物館の動向に特徴的な傾向があらわれている。

《大学附属博物館と研究センター》

第一は、研究の充実と発展を意識し、設立・改組する研究博物館の増加である。その典型例が、東京大学の総合研究資料館である。従来の研究の枠組を打破し、境界領域の研究、学際的な研究に大きく貢献しているという。いわば博物館が、研究のセンター的役割を果すのである。

かつて人類学・進化論研究の中心的役割を果し、現在一七の博物館（園）を有するハーバード大学(米)をはじめ、ブリティッシュ・コロンビア大学（加）、ゲッティンゲン大学（西独）、フンボルト大学（東独）、オックスフォード大学（英）など、附属博物館が研究の中心的役割を果している例は、欧米には珍しくない。日本においても、大学附属の研究博物館がようやく市民権を獲得しつつある段階、と言えよう。北海道大学やいくつかの私立大学において新たな設立が予定されていると聞く。今後ますます増えるであろう。

《大学附属博物館と社会教育》

第二は、最新の研究成果を、大学の附属博物館を通して広く一般市民に提供しようという傾向である。欧米、特にアメリカでは、大学附属博物館は、大学と市民が交流する接点広場と言われるくらい、教育機能を発揮している。残念ながら、筆者自身これまでに訪問する機会を得ていないが、スミソニアン研究所（米）は、その好例として有名である。『タイム』一九八五・十二・九日号に、そこのミュージアム・ショップに関する記事がある(丹青総合研究所)。同年の九月決算で九つの売店と通信販売からの売り上げが三、四五〇万ドルに達し、わずか一年で二九％もアップしたこと、これらの売り上げの中で、クリスマス期間中の売り上げの占める割合が高く、「大勢のひとたちは、(芸術と学術の薫りをかぎながら)、ミュージアム・ショップを素晴らしいクリスマス・プレゼントを買える所だと思っている」、という内容である。ちなみに、ミュウジアム・ストア協会は、いたずらな商業主義に走り、科学的水準の低下を引き起すことがないように「倫理規定」を設けている。タイム誌にある売れ行きも、関係者による不断の努力があってのことである。

横道にそれたが、ここで、タイム誌の記事を紹介したのは、日本の附属博物館にもこうした商業主義を取り入れよということを主張するためではなく、(開かれた大学を目指す私立大学が、やがてこのような附属博物館を設立する方向に進むに違いないと、予測できるのではあるが)、欧米の大学が市民と、博物館を介して交流している様子、大学が広い市民によって支えられている事

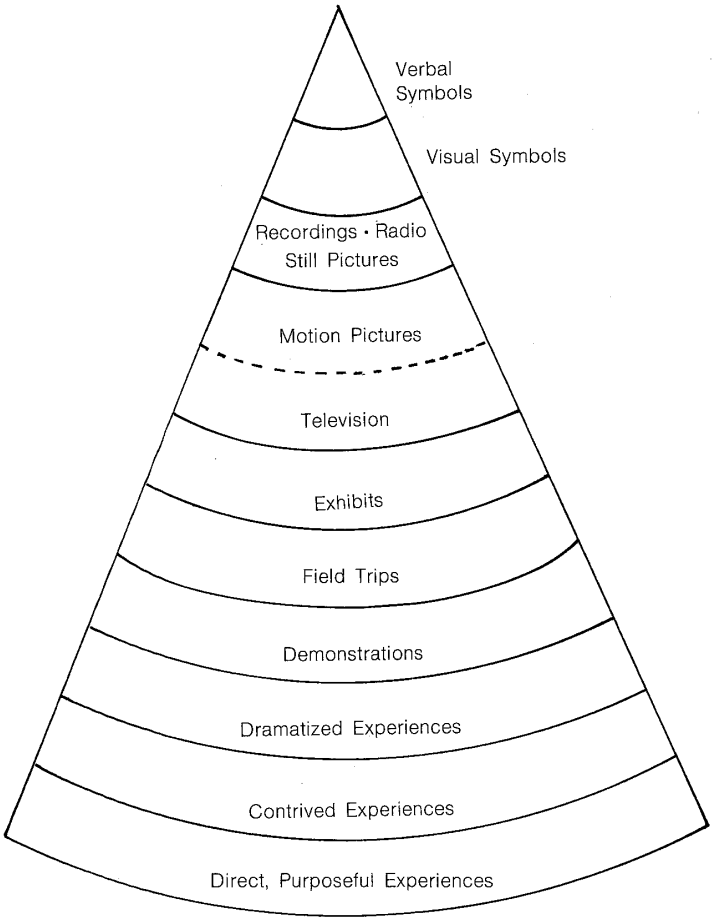
実を、分かりやすく示したに過ぎない。欧米に学んで始まった博物館でありながら、欧米の博物館からもっとも遅れをとっている点である。

さて、良い大学は、優れた研究者集団と優れた研究成果によって支えられることは、あらためて言うまでもなかろう。(筆者がそうした研究者であるかどうか、ここでは問うまい)。そして、その優れた研究成果が、広く社会に共有されてはじめて、大学の社会的関係が完結する。そこに教育が介在し、有効な〝伝達手段の研究〟が要請される。封鎖された中での講義や文字媒体に頼り過ぎてきた伝達手段に反省が加えられ、近年ようやく新しい方向が指向されつつある。すなわち、地域に開放された公開講座がそのひとつであり、もうひとつは附属博物館を開放(開設)し、今日叫ばれている生涯学習の場を積極的に大学が提供しようというのである。

東海大学の社会教育センターを中心に結びつく博物館群は、もっとも進んだ形態である。サマースクールや講習会など、きめ細かい社会教育システムが企画・実践されている。また東京農工大工学部附属博物館では、「友の会」組織の結成の準備が進められており、明治大学などでも検討されていると、聞く。

図―2は、教育の媒体にかかわるディールの「経験の円錐」理論である(Dale, E.)。文字や言葉のような抽象的な表現より、視聴覚的な表現の方が、さらには直接的・目的的体験の方が分かりやすい、という。最先端を行く高度な内容の知識・情報を、どのように伝達するか、大学が真剣に検討しなければならない、大きな課題であり、附属博物館(モノをただ並べるだけの古典的な博物館ではない)が注目される所以はここにある。

■図-2　The"Cone of Experience"



《大学のイメージ・アップに果す大学附属博物館》

第三は、上記の点とも関連するが、大学の開放を博物館に求め、大学のイメージ・アップを図ろうとする傾向である。ややたいそうに言うと、私学の経営戦略と深く結びついている。

博物館の存在が、一つの都市のイメージをいかに高めているか、美術館・博物館が歴史的町並みにピッタリとマッチした倉敷市の例を上げるだけで充分であろう。イタ

リアの大商工業都市・ミラノは、立派な美術館、劇場など文化施設の歴史的蓄積をして、ミラノ遷都の話題を提供している、という。

また近年、企業が設立する「企業博物館」が急増している。創業・設立の周年記念事業や何かのイベントをきっかけに設立された博物館や企業の歴史的な建物（本社・事務棟・工場・倉庫）の保存をきっかけに設立された博物館などがあり、かつてのような、利益にまかせて美術館を作るという類いよりも、社業・自家製品に関係するものを収集・研究・展示する博物館が大半を占めている。企業のＰＲ色を極力おさえたものもあるが、企業のイメージ・アップを狙いとしたものであることに間違いない。

今年6月に開館したばかりの東北福祉大学付属の芹沢銈介美術工芸館は、重要無形文化財「型絵染」の保持者であった芹沢銈介氏の遺作を収集・展示する新しいタイプの大学博物館である。株式会社地崎工業などの施工による、展示面積およそ一八〇〇㎡もある大きな博物館である。入場が、学生一〇〇円、一般三〇〇円、有料となっている点でもユニークである。学芸員資格取得のための実習施設として活用されているが、学部の研究・教育と直接には関連していない。設立の目的はどうであれ、文化的遺産を保存・公開する場を提供し、大学のイメージ・アップを図ろうというケースである。東海大学の博物館群を始め、私立大学の附属博物館は、多かれ少なかれ、大学の経営戦略と深く結びついている。

総合博物館の創設を

以上を要約すると、大学の附属博物館は、大学の研究・教育の発展のために、そして大学のイメージ・アップのために、必要不可欠な存在として、今後ますます大きな役割を果して行くにちがいない、と言い得よう。

本学においても、学部の特色を発揮し、同時にその枠を越える新しいタイプの総合博物館が創設されるよう期待したい。関連して、社会は、経済学に強い学芸員、経営学に強い学芸員、外国語に強い学芸員、法学に強い学芸員を待ち望んでおり、本学の学芸員養成課程の設置・整備は急務である（四年制に設置されてこそ、「学芸員資格」がとれる）。

再び述べよう。博物館(Museum)は、紀元前三世紀頃、エジプトのアレキサンドリアに設立されたムゼイオン（Mouseion）に由来する。そもそも、ギリシャ神話にある文芸美術の女神ミューズ神Museに捧げる殿堂で、学者達が集まり、研究情報の交換や集積を行っていたと言われる。学問の進歩と学生養成のための、いわば、学術の府であったことが知られている。同時に、Paine,R.A.は、貴重な資料が並べられ、展示の原形があったとして、博物館のおこりをムゼイオンに求める。大学にこそ、博物館が似つかわしいのである。

ナポレオンのエジプト遠征に帯同したフランス一流の学者たち、ロゼッタ・ストーンを用いてヒエログリフの解読に成功したＪ・Ｆ・シャンポリオン等々。

良き研究は良き博物館を作り、良き博物館は良き研究を作る。

《引用文献》
丹青総合研究所　『博物館・情報検索事典』一九八六
Dale,Edgar. Audiovisual methods in teaching.3 rd ed, New York,The Dryden Press and Holt,Rinehart & Winston, c 1969
Paine, Robert A. Museums.New Book of Knowledge,Grolier International.